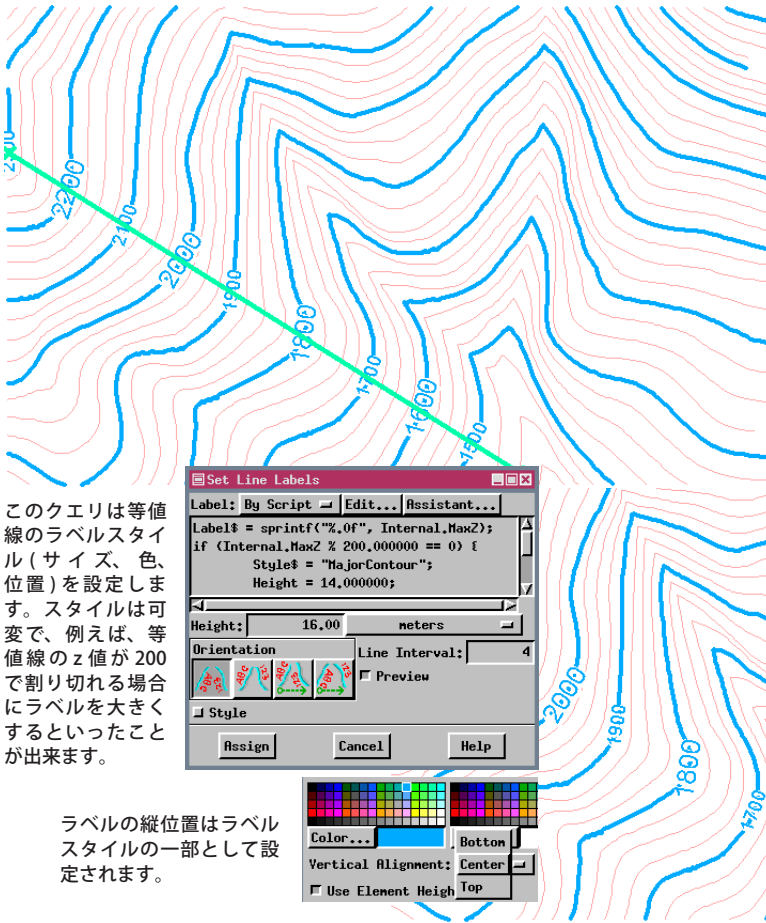


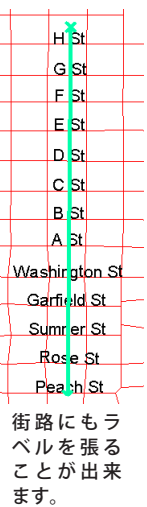
ラインラベルの対話設定



このクエリは等値線のラベルスタイル(サイズ、色、位置)を設定します。スタイルは可変で、例えば、等値線のz値が200で割り切れる場合にラベルを大きくするといったことが出来ます。

ラベルの縦位置はラベルスタイルの一部として設定されます。

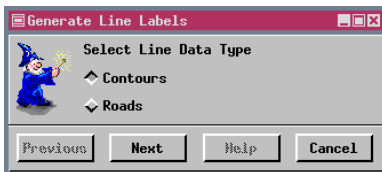
空間データエディタに、ラベルの位置決め用に描いた線分と交わるライン上にラベルを置くことが出来る新しいツールが組み入れられました。ユーザはツールやオブジェクトに対してラベルの向きを指定したり、ラベルをラインの上か下または中央のいずれに置くかを指示することが出来ます。さらに、ラベルスタイル用クエリを書く手助けをする「アシスタント」もあります。



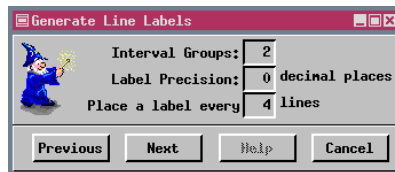
街路にもラベルを張ることが出来ます。

ウィザードを使ってスクリプトを書く

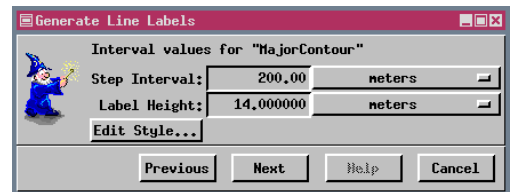
どんな簡単なラベルでも、スクリプトを書く知識が必要です。例えば、上の等値線のz値は属性値を単に表示しているわけではありません。Internal.MaxZの小数部を省略して切り詰めて表示しています。ラベルサイズを変えることも出来ます。ラベルアシスタントは次々にウィンドウを表示して、ラベルに何を含めるか、ラベルをどう表示するかを設定することが出来ます。他に、ラインのタイプ(等値線か道路)も選ぶことが出来ます。



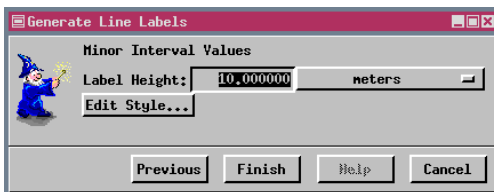
① ラベルをはりたい線の種類を選択してください(現在は等値線と道路のみがサポートされています)。



② 等値線の場合、「間隔グループ(Interval Groups)」の数を指定します。これは使用するラベルスタイルの個数です。等値線の値に表示する小数部の桁数。何本間隔でラベル表示するかを指定します。



③ 「等値線の間隔(Step Interval)」を設定します。これは1つの間隔グループに対する標高差です。ラベルの高さをオブジェクト座標で指定します。[スタイルの編集(Edit Style...)]をクリックして、フォント、色、配置を設定します。これはその後のウィンドウで変更しなければ、全てのラベルに適用されます。



④ 小間隔のラベルの高さを指定し、希望であればスタイルを変更します。このような設定の結果が、上図の等値線のラベルです。